

第52回学習会を、平成26年5月2日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第52回の内容

講師 重枝一郎先生

年度初めの学級づくり

- 1 年度当初の職員室づくり
- 2 学級づくり 演習「サインをもらおう」「並べてみよう」
- 3 ルールづくり 感話「チンパンジーとオラウータン」「毒を吐く」
- 4 ルールを破ったら
- 5 その他「ラーニングピラミッド」



年度初めの学級づくり

1 年度当初の職員室づくり

(1) 教師は対人援助職であり、終わりが見えにくく目に見える成果を実感しづらい

迷い・不安 **職場の肯定的なフィードバック**

(2) 人事異動等での不安・緊張 **新しい仲間とのコミュニケーション**

(3) 学び合う同僚性づくり お互いを知る 見合う 一緒に考える 教え合う
協働性であり同調性ではない

2 学級づくり

(1) 学級内の良好な人間関係づくり

会話、スキニップ、固定化しないグルーピング

期待と安心感

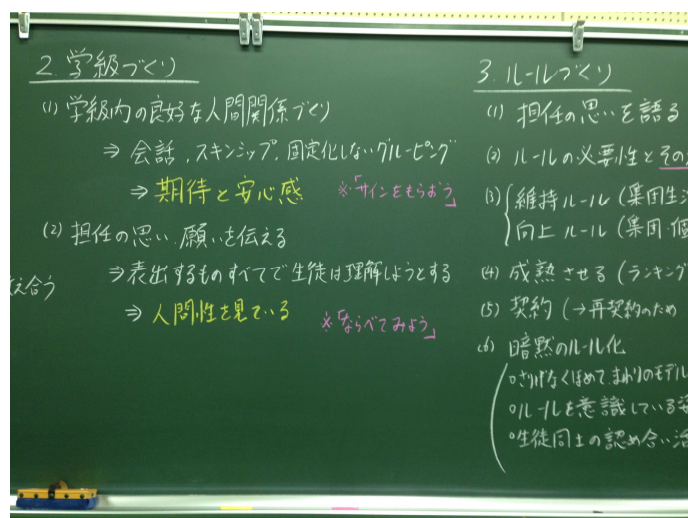
「サインをもらおう」

(2) 担任の思い、願いを伝える

表出するものすべてで生徒は理解しようとする

人間性を見ている

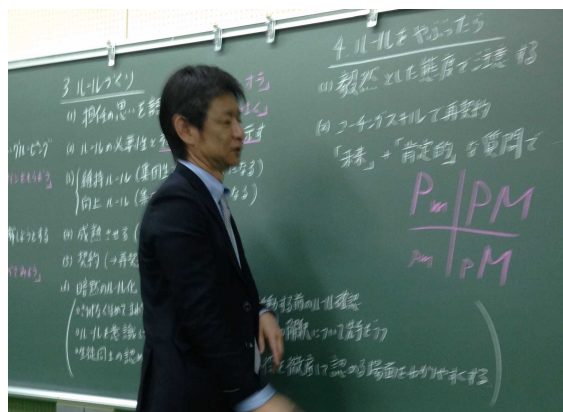
「ならべてみよう」



3 ルールづくり

- (1) 担任の思いを語る
- (2) ルールの必要性和その先にある世界を示す
- (3)

{	維持ルール (集団生活がスムーズになる)
	向上ルール (集団・個人がよりよくなる)
- (4) 成熟させる (ランキング, KJ法)
- (5) 契約 (再契約のため 視覚化)
- (6) 暗黙のルール化
 - ・さりげなくほめて, まわりのモデルになるよう
 - ・ルールを意識している姿勢をほめる
 - ・生徒同士の認め合い活動
 - ・何か活動する前のルール確認
 - ・グレーゾーンの解釈についての先手をうつ
 - ・一人一役を徹底して, 認める場面をわかりやすくする



4 ルールを破ったら

- (1) 毅然とした態度で注意する
- (2) コーチングスキルで再契約
 - 「未来」+ 「肯定的」な質問で

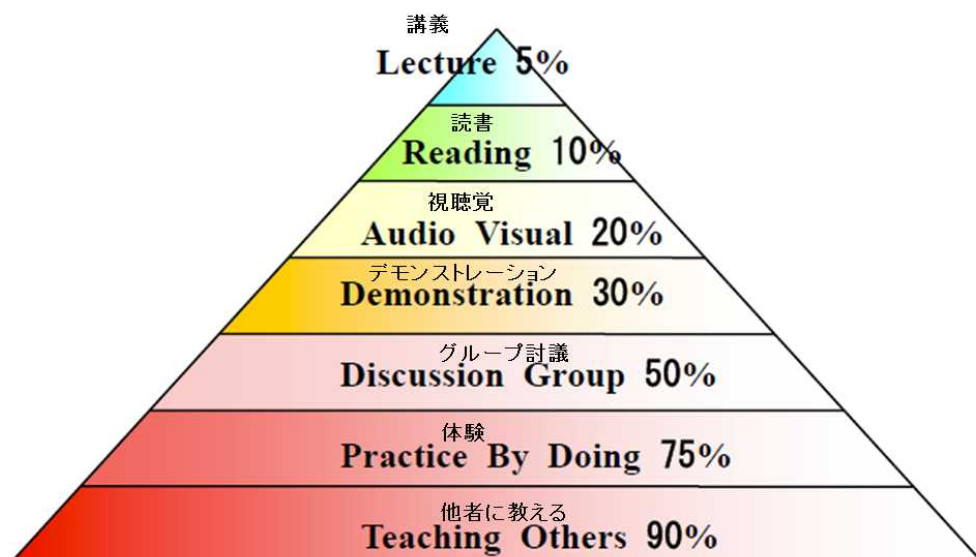
「PM理論」

5 その他

ラーニングピラミッド

学習定着率「Learning Pyramid」

(出典: National Training Laboratories)



解説

まず、職員室づくりから

教職は対人援助職です。その対象者は十人十色であり、援助内容や方法に正解はありません。だから、教師には常に迷いや不安があります。そんなときに、他者からさりげない肯定的な一言があると、救われます。「先生、がんばったね」「さっきの子どもへの声かけ、すごくよかったよ」などの一言で、勇気や自信がわいてくるのです。

4月は、異動してきたばかりの先生や校務分掌が変わった先生などがいます。分からないことが多い時期だからこそ、仲間同士の良好なコミュニケーションが重要になります。忙しければ忙しいほど、誰かと一緒に考えたいものです。その方が、よい発想やアイデアが生まれます。これが、協働性です。

年度当初の学級づくりのベースは、職員室のよい空気づくりからです。

お互いのよさを見合える関係

先生同士で話す時には、誰かの陰口や悪口ではなく、尊敬できる先生の話や、その先生に対して感謝している具体的な場面や内容を話すようにします。そして、その内容をさりげなく相手に伝えるようにします。そうすると、話した先生と、もうひとりの先生の自己肯定感を上げることになり、職員室のよい空気づくりにつながります。これは、学級づくりでも有効です。

年度当初の学級づくりでは、固定化しないグルーピングを意識します。クラスの中の誰とでも組める安心感をつくります。

例えば、自己紹介の方法として、「サインをもらおう」というエクササイズがあります。これは、「呼ばれたい呼び方」や「趣味・特技」を聴き、ワークシートに書き込み、相手のサインをもらう内容です。その時に握手をするなど、スキンシップを入れると有効です。スキンシップは安心感を高めます。

このような活動を通して、クラスのいろいろな人と触れ合うことができるように仕組みます。

サインをもらおう

相手の名前	呼ばれたい呼び方	趣味・特技など	相手のサイン
1			
2			
3			
・			
・			
・			

担任の思いや願いを伝える

担任の思いや願いを子ども達に伝えることは大切ですが、子ども達は話の内容や言葉だけを聴いているのではないことを自覚しておきます。どちらかといえば言語情報よりも、非言語なものを多く受けとっています。表情や立ち居振る舞いなど、表出するすべてを相手はキャッチしています。人間性を見ているのです。

だから、教師は、何を語ったらよいのかという話す内容を悩むと同時に、ひとりの人間として子どもに見られていることを意識して、伝わっているかどうかを考えるようにします。

例えば、「先生は、カルピスが好き。それも、濃すぎず薄すぎず、ちょうどよいのがいい。このバランスが大事」という話にかぶせて、他の先生が「自分はスカッとさわやかなコーラが好き。スカッとさわやかが大抵」という話をすると、子どもの心に印象深く残ることがあります。このように、伝え方が大切です。

学年集会や全校集会など、教師が話す機会は多いのですが、子どもの心に残る話がどれくらいできているでしょうか。「あれだけ話したのに、伝わらない」と嘆く前に、相手に伝わるひねりが必要です。

アクティブラーニング型授業

アクティブラーニング型授業は、教師による一方向の講義型授業ではないので、子ども達の主体性を育てることができます。仲間と学び合いをする授業です。

講義型授業と比べて、時間がかかるというデメリットがあるかもしれませんが、子どもも教師も慣れてくれば、時間はかからなくなります。

ここで大切なのは、振り返りです。必ず、どれくらいわかったのか確認テストをします。

MTM (マッチ・トレーニング・マッチ)

サッカーの指導でよくする手法で、選手の意欲を高める方法が、「MTM (マッチ・トレーニング・マッチ)」です。

まず、試合をします。そして、何がうまくいかなかったのかを考えさせます。例えば、パスが繋がらなかったなどの意見が出てきたら、それをトレーニングします。そして、もう一度試合をして、前と比べます。前よりも向上しているという実感がもてたら、それでOKです。

このように、アウトプットする場面をつくると、インプットが強まります。

授業でも同じように、「後で発表してもらいます」「テストをします」など、アウトプットする場面をつくると、強制性が背景にあるにせよインプットが強まります。

アクティブラーニング型授業をするときには、アウトプットする場面とセットにすると効果を上げます。

演習 「ならべてみよう」

教師の思いや願いを伝えるための、ひとつの方法です。
封筒に、バラバラにした「言葉」を入れておきます。
4, 5人のグループで協力して、その言葉をひとつひとつ、つなぎあわせて言葉を完成させます。

例えば・・・

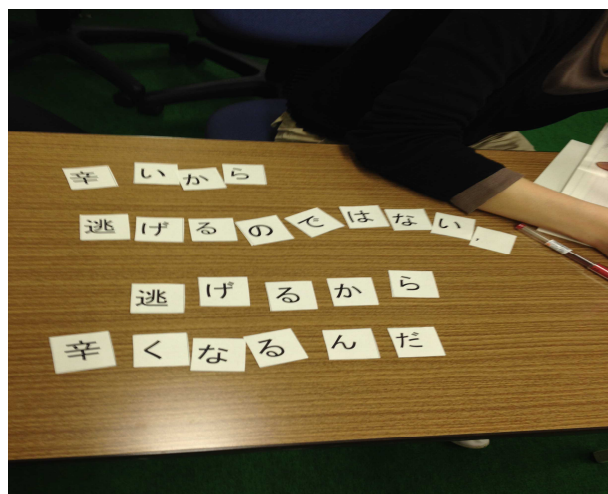
- 「また会ってみたいと思われる人になりなさい」
- 「勝負は一瞬 努力は無限」
- 「辛いから逃げるのではない 逃げるから辛くなるんだ」
- 「嫌だなは、経験不足」
- 「あいさつと感謝と笑顔はすばやくやる」
- 「できない理由をさがさない できる方法を考えよう」
- 「ありがとうとごめんなさいは自分が先に言いなさい」
- 「私たちの仲がよければ、たいがいのことは大丈夫」

どんな言葉でもよいので、子ども達に伝えたい思いや願いを、メッセージにします。

完成したら、その言葉を画用紙に書いて、教室掲示をしてもよいと思います。

子どもの活動が入るので、教師が語る以上に印象に残ります。

短時間でできる内容です。おすすめの演習です。



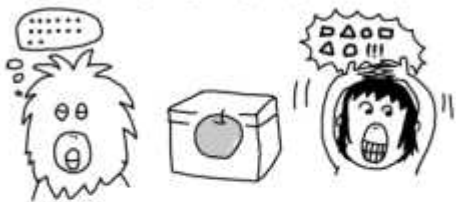
心に響くたとえ話

教師の説教に拒否反応を示す子どもは、少なくありません。あからさまに反抗的な態度をとらなくても、聴いていないことはよくあることです。どんな正論であっても、あたりまえの発言やお決まりの文句では、子どもの心に素直に入らないことがあります。大事なものは、どれだけ相手に伝わっているかということです。

そこで、子どもの心に響くたとえ話を紹介します。自分なりのアレンジを加えて、子どもに伝えるようにお話しください。

「チンパンジーとオラウータン」

カギのかかった箱の中に果物がありました。



チンパンジーはカギの前に行って、カギをガチャガチャして10分後に果物を食べました。

オラウータンはカギの前に行って、10分間じっとカギを見つめ考えて、カギを開けて果物を食べました。

さあ、どちらが偉いでしょうか？

「チンパンジーは努力しました」 「オラウータンはずっと考えました」

では、どちらが早く果物を食べましたか？

「どちらも10分後だったので同点です！」

それでは、あなたはどちらのタイプですか？

「チンパンジータイプは手を挙げて」「オラウータンタイプは？」

・・・子どもに手を挙げさせると、だいたい半々くらいに分かれます。

授業中に先生は、どちらのタイプも評価します。

チンパンジータイプはよく発表するし、オラウータンタイプはよく考えています。

発表をたくさんしている人も、しっかり思考している人も同じように評価したいのですが

観点別評価でいう「C」の人を、タイプ別で考えてみると

チンパンジーC:「ハイハイハイ、先生、先生、先生・・・」とうるさく言って

当てたら「忘れました」という、授業を邪魔するタイプ

オラウータンC:何もしない人

えんぴつはもっているけれど、目は閉じていたり、考えていない人

さあ、あなたは次の4つの、どのタイプですか？

チンパンジーA・チンパンジーC・オラウータンA・オラウータンC

・・・子どもに手を挙げさせると、4つに分かれます！

先生はCは評価しません！

「自分を知らう！」どちらのタイプでもいいから「A」になろう！

その時に、チンパンジー「C」がチンパンジー「A」をめざすのではなく

黙って考えることにチャレンジしよう！

そしたらいつの間にか、チンパンジーAになる

(授業を邪魔する子どもが黙ります!!)

オラウータン「C」はチンパンジー「A」をめざそう！

おとなしい子どもが急に手を挙げることはありませんが、そこに価値を見出します。

矢印の方向を目標とします。

人それぞれにタイプがあります。

自分のタイプの逆を体験することが大切です。

チンパンジー A	チンパンジー C
オラウータン A	オラウータン C

上記のような話をするすると、子どもは自分を客観的に振り返ることができます。

その、振り返りだけで終わらず、自分のめざす「先の姿」を具体的にイメージさせます。

そのような「説得」をします。

授業中の望ましい態度について、ありきたりの「説教」をするよりも、効果的です。

授業態度の評価基準を示すこともできます。

「閉鎖空間」

ストレスが徐々にたまっていく空間と定義しておきます。

これは、ハツカネズミの実験で証明されていることです。

ある空間に、ハツカネズミを閉じ込めていると、ストレスがたまって殺し合うのです。

これは、人間も同じです。

教室という「閉鎖空間」で「毒」を吐くと、息苦しくて生活できなくなります。

ここでいう「毒」は、「暴言」や「先生の怒鳴る声」等です。

授業中に大きな声を出すこと（大きな声で先生を呼んだり、友だちを呼ぶこと）も、ストレスに感じます。

お互いが心地のよい空間にするためには、「心理的酸素」が必要です。

「心理的酸素」

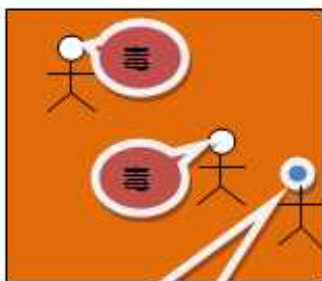
キーワードにします。

人とのかかわり方です。話し方や聴き方。

人とのつながりを意識することで、「楽しいクラス」になるのです。

【心理的酸素】

教室はそもそも閉鎖空間であり、自然とストレスが溜まると考えられる。その上、「人の悪口」「されたくないこと」等がその空間で横行すると、中に毒が充満し心理的酸素がなくなる。心理的酸素がないと、自分はここでは生活できない子どもができる。教室は閉鎖空間なので、心理的酸素は自分たちでつくらなくてはならない。それは、あたたかい配慮や、思いやりのあるかかわりでつくられる。



最初に毒を吐く人がいる「お前とかここに来るな！」
それに反応して毒を吐く「うるさい、お前が出て行け」
次々に・・・毒を吐ける人はいい・・・毒を吐けない、吸うしかない人は・・・（ここでは生活できない・・・）
これは、言葉に限った話ではない。こんな教室に誰がしたい。みんなが安心して生活できる教室って・・・
だから「教室のルール」が必要。みんなで考えよう。
（こんな絵を板書しながら話してみても・・・）

黒板に絵を描きながら話すと、視覚に訴えることもできて効果的です。生徒から引き出して、必要なルールを契約します。

ルールには、「維持ルール」と「向上ルール」があります。それを、カテゴリー分けしてランキングし、意識付けをします。なぜ、そのようなルールが必要なのか、それを考えさせます。

6月は、ルールがゆるむ時期です。ゆるんできたら、「再契約」をします。そのためにも、まずは、契約したルールを視覚化しておくことが大切です。

「何で、できないのか」という否定的な言い方ではなく、「どうすればできるようになるのか」という未来を問うような方法で、子どもの考えを引き出すようにします。ちょっとした言い方ですが、大きく違います。それが、教師のセンスです。

「PM理論」では、Pが指導面、Mが援助面と定義付けられ、その両方が大切とされています。そのPMの出し方が、教師の個性です。優しくしてしまりが無いのでは困りますし、教師主導型で言いつばなしでも、子どもの自主性や自発性は引き出せません。だからこそ、個々の教員が力量を高めると同時に、個々の教員の持ち味を生かしたチーム実践が、教育効果をあげるのです。

本日のキーワード

その先にある世界を示す

維持ルール（集団生活がスムーズになる）、向上ルール（集団・個人がよりよくなる）

「未来」＋「肯定的」な問いかけ＝コーチング

学習会に参加された先生方の感想

（参加人数 26名）

- ・年度当初の活動や心構えについて学び、エネルギー補給ができました。風土会に参加して、今年で2年目になりますが、昨年、学んだことを実際にしてみてもうまくいかなかったことや不十分だったことを、今年度、再度やってみて自分のものにしたいという思いがあります。学んだことを現場で実践します。
 - ・「学級づくり」「ルールづくり」など、本日教えていただいたことを学年に持ち帰って実践し、学年全体のスタートをよいものにしたいと思います。そして、子ども達をさらに上のステージにステップアップさせることができるように工夫していきます。
 - ・今年度、久しぶりの3年担任という立場で、昨年とはまた違った意識や視点で、今日のお話を聞かせていただきました。今の自分は、ルールの定着に重きを置きすぎていると思うので、生徒同士が認め合う活動を早くやりたい、やっていく必要があると強く感じました。
「その先にある世界を示す」・・・ここが自分の弱いところだと、話を聞きながら思いました。それができるようになるには、自分自身でじっくり考え、勉強して見つけていく必要があるのだと思います。
 - ・いつも熱のこもったお話をありがとうございます。
押しつけではなく、どうやって生徒にルールの必要性を感じさせていくのか具体的なお話をして下さったので、なるほどと納得させられました。自分の伝えたいことをしっかり整理しておいて、いつでもチャンスをつかまえて話していくことが大事だと感じました。
- （新しい年度がスタートしました。これから学校で、どんなドラマが始まるのかワクワクします！日々、成長していく子ども達に関わる教師は、いつも学び人間性を高める必要があると思っています。そのために、今年度も一緒に風土会で語り合いましょう！）
- ・「ルールの再契約」「心理的酸素」にとっても共感しました。これからできる限り参加させて下さい。
 - ・ルールづくりにおいて、担任の思いを語るだけでなく、ルールの必要性とその先にある世界を示すことが重要であると感じました。「チンパンジーとオラウータン」の話や「毒を吐く」話などを、今の学級で語りたいと思います。学年や学級、部活動で子ども達に話したい、伝えたいと感じる言葉を知ることができて、これからの学校生活がまた、楽しみになりました。
 - ・初めての大規模校、担任で、毎日めまぐるしく過ぎていくなか、何か大切なことを忘れていた気がして、今回参加しました。久しぶりに参加して、いろいろなことに挑戦したいと思い、すごく勇気がわいてきました。体育大会のことも不安だったので、ルールづくりなど取り組んでみようと思います。また、参加します。
 - ・同じ時期に風土会で学んだ内容ですが、毎年、学級の状況や学年の状況が変わるので、「今」の学年、学校に合ったものを選ぼうとしている自分があります。やはり来てよかった！
 - ・久しぶりに重枝先生のお話が聞けて元気が出ました。それは、来週、生徒にこのような話がしたいというイメージがもてたからだと思います。金曜日になると、1週間いろいろやり切った気分になり、イメージがわかなくなるのですが、今日のお話を聞いてもう、月曜日のような気持ちになりました。
- （月曜日が待ち遠しい先生が居る学校ではきっと、生徒も月曜日を楽しみにしているでしょう。何か大切なことを忘れていたような気持ちになった時には、風土会に参加して下さい。必ず元気がでますよ！）